

玉川上水・野の花だより No. 8 武蔵野の雑木林

中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子 2026年 5月1日

野の花を育む武蔵野の杜は、「雑木林」と言われますが、人々の暮らしを長い間支えてきたクヌギ、コナラ、イヌシデ等の落葉広葉樹林です。これらの樹木は、たきぎ等の燃料となり、落ち葉は畑地の肥料として活用されてきました。

人が定期的に管理をし、下刈りや枝打ちをして更新してきた杜で、江戸時代から継承されてきた典型的な雑木林が、明治神宮内苑にある「御苑」です。ここは、井伊家の林泉として営まれてきました。明治時代になると、病弱な昭憲皇太后のために明治天皇がハナショウブを植栽され、安らぎの場として整備が行われました。明治神宮を創り出すとき、渋沢栄一等は数ある候補地の中から、最も林泉の美の備わっている別天地として、「御苑」を選んだのです。

ここを訪れますと、清正井に続く低地を取り囲むようにイロハモミジが林縁を覆い、ヤマブキ、ヤマツツジ、トウゴクミツバツツジ、サツキ、サザンカ等が四季折々の華やぎをそえています。柔らかな木漏れ日のこぼれるイロハモミジは、雑木林を支えるかけがえのない樹木です。

5月1日、笹塚緑道の南ドンドン橋の傍らで、雑木林の生物多様性を再生する植栽が行われました。シモツケソウは、初夏に淡桃色の小さな花を多数つける美しい花です。バイカウツギは、日本の固有種で、古くから茶花として使われてきました。「野の花」を通して、日本の奥深い文化をかいまみることができます。稲荷橋～第二号橋～南ドンドン橋～第三号橋～笹塚橋をつなぐ「野の花」の道が、少しずつですが、つくりだされています。



シモツケソウ



バイカウツギ

参考：今日に継承されている「武蔵野の雑木林」

———明治神宮内苑の中の「御苑」エリア



明治神宮造営以前の南豊島御料地（大正5年頃）
南池を中心として、井伊家林泉を継承する明るい雑木林が継承されています。
出所：内務書神社局(1930)『明治神宮造営誌』



現在の明治神宮「御苑」：井伊家林泉として、営まれてきました。

明治30年頃、清正井に連なる谷戸が菖蒲田として整備されました。この谷を取り囲む樹林は、イロハモミジ、イヌシデ等の落葉広葉樹であり、尾根筋には、モミの木がそびえています。明るい林床には、早春にはカタクリが咲きます。